

小林氏を招じて會社の支給せんとする額妥當たるか、職工側の要求適切なるかを協れり、此時別席にありし菊池武徳氏勞資問題研究会を主宰する關係上亦招かれて其懇談の席に加はれり、中村社長の問に對して小林氏の意見は經濟界の不況斯の如きとき一度失職せる熟練工は容易に職を見出し得ざるべし現在の給料に於て殊に然りとす、職工一度失職せんか再び職を得て、安んじて勞務に携はる日が一ヶ月後か日將た一ヶ年の後か豫測すること難しとせば解雇手當は幾何が適當なりとは何人も斷じ得ざるべきに會社が此額は適當なり之以上は不當なりとなすが如き態度は好もしきものにあらすと云ふにありたるが如し、又同席上職工をして事件解決の前途を悲觀せしめんか或は足立事件の二の舞を演せしむるなきを保せずとの説も出でしが中村社長は「そのために警察があるではないか」とて警視廳及品川署に向つて特に警戒を依頼する等の滑稽事もありき、斯くて大勢は新提案の拒絶と決し十七日の會見日を待つこととなれり。

△帳簿検査の要求

十七日午後一時半中村社長は山口龜藏外四名の交渉委員と會見し、重役會の結果は發動機引渡の要求に應じ得ざることなれり、會社は「曩に發表したる解雇手當の額を調達するに最善を盡したれば、諸君は會社の苦衷を諒とし、之を以て事件を收められたく、何時迄接衝するも果てしなきことなれば

會社は公休も本日限り打切るべし」とて、情理を盡して硬く其説を持したり、交渉委員は一間一答の形式にて會社が機械引渡しを拒む心事を難詰したり、社長は重ねて「會社重役は諸君と既に數回の會見を重ねたるも、論議多く感情のために末節に走るの虞れあり、故に此上は直接交渉を避け第三者の調停に依頼して新局面の展開を計つては如何、諸君が紳士と認めて依頼さるゝ人物ならば會社は決して之を拒まず、而して其第三者が公平なる見地より爲せる裁量が若し會社の發表したる手當額を超過せば、其時には重役各自に於て能ふ限りの努力を盡し其額を調達すべし、諸君との直接交渉は之を以て打切るべし」と言ひ放てり。

是に對し職工側は「會社が組合の要求を是認せざる限り職工は解雇を認めず曩に會社は會社の調達せる六千四百圓は最善を盡して得たるものにして之以上は到底不可能なりと云ひ乍ら、今事件を第三者に委任し其裁量、六千四百圓を超過せんか之を調達するに吝なちすと云ふが如きは、言を二にするものにて明かに不誠意の證左なり、會社は六千四百圓以上の調達能力あるに相違なしと組合は信するが故に、社長は會社の帳簿を公開されたし若し社長にして之を許容せずとせば職工間に三名の株主あるを以て株主の権限に於て閲覽を求むべし如何と迫り社長は「帳簿の公開は差支へなし」と答へたり。職工間の株主とは中田惣壽三橋友造井口與七の三名にて各自十株宛を所有し居れり。

日鐵罷工は斯くして工場閉鎖の宣言を見るに到れり。